

「食感のオノマトペ」から学びを広げる

東京都西東京市立田無第三中学校

人見 誠

次のようになった。

「食感のオノマトペ」(注)は、生徒にとっては読みやすく親しみやすい、魅力的な学習材の一つである。普通に読んで終わらせてしまっただけではもったいない。そこで、「食感のオノマトペ」を読んだうえで、そこから発展させる学習を行ってみた。

1 世代間で使い方に差がある オノマトペを調べる

文章中では「べたべた」「ひりひり」は中高年層が、「しゅわしゅわ」「ぶるぶる」「まつたり」は若年層がよく使うとされている。生徒に聞いてみても同様の意見であった。そこで、その他にもこのようなオノマトペがないか実際に調査してみることにした。

今回は「さくさく」「しゃきしゃき」「こりこり」「ぼりぼり」の四つについて調べてみた。若年層は先輩や兄弟などに、中高年層については家の人や地域の方に協力していただいで、その結果を持ち寄った。まとめた結果は

○「さくさく」「しゃきしゃき」はどちらもよく使う。
○「こりこり」「ぼりぼり」は中高年層の方がよく使う。

この結果について生徒たちは、「やはり普段の食べ物との関係が深い。」と分析している。文章中の筆者の主張を裏づける結果となった。

2 オノマトペを使わないで 表現してみる

生徒には、あらかじめオノマトペが使われている商品をさがしておくように伝えておく。次の時間に聞いてみると、多くのものがあげられた。

プッチンプリン、ガリガリ君、ギザギザポテト、ペロペロキャンデー、パクンチョコ、じつくりコトコト煮込んだスープ……。
次に、この商品名をオノマトペを使わないで表現させてみた。すると、例えば次のような表現になる。

○プッチンプリン↓底の爪を折ると出てくるプリン
○ガリガリ君↓かじると歯ごたえのあるアイス
○ギザギザポテト↓表面がとがっているポテト

生徒からは、「ただだから説明しているだけでわかりづらい。」「オノマトペを使えば簡単なのに……。」という声があがった。オノマトペの効果を実感することができた。

3 オノマトペを使って文章を書く

えびの天ぷら、親子丼、チャーハン、カレーライス、焼きそば、オムライスのうちから好きなもの一つ選ばせる。そして、それを誰かにおすすめするという想定で、コメントを書かせた。書く時の注意は次のとおりである。

コメントを書くときのポイント

- ①書き出しは、必ず料理の見た目、またはおいの表現から書き始めること。その時、オノマトペを必ず使うこと。(両方をいれてもよい。)
- ②つぎに食べたときの感じをできるだけ詳しく書くこと。
- ③最低四つのオノマトペを使用して書くこと。

概ね次のような作品ができあがる。

生徒作品例

●あつあつ、出来立てチャーハンです！
フワフワ卵にしょう油の風味がプーンとただよってくるあつあつチャーハンです。
ホッパホッパのご飯にしょう油の風味が口

の中にシュワーっと広がって、あつあつの出来立てチャーハンです。シューシーな野菜とごはんがからまりあっていて、おいしいです！食べてみてください！

●見るからにフワツとしたり卵やしょうゆのにおいがただよっていて、野菜がほどよくやわらかくなっています。
「ご飯はホッパホッパと温かくて、フワフワの卵とよくからんでいておいしいです。ピーマンやネギは、火がよく通っていてしんなりしています。しょうがの食感がシャキシャキとしていてとてもおいしいです。
香ばしくておいしいので皆さんも是非食べてみてください。」

学習を終えて感想を書かせたが、生徒の反応は好評であった。一部を紹介する。

生徒の感想文から

○「オノマトペ」という言葉は初めて聞きたが、表現として「パリ」や「カリ」……。知らない間にたくさん使っていることに気づいた。それらを全部ひっくるめて「オノマトペ」だ。オノマトペの学習楽しかった！
○たくさんあるオノマトペの中でも書いて

いる文にあうものは何個も出てくる。その中から一番おいしそうなのを使って書いていくと、読んだだけでおいしい感じがわかる。オノマトペの力ってすごいと思う。

○オノマトペはとても大事な言葉だと思いました。ほんの短い言葉だけど、文章を効果的にわかりやすくまとめる大切な言葉だとわかりました。

今回は三つのことに取り組んでみたが、生徒の実態や授業の進度に応じて使い分けることもできる。一つでも実践してみただけだと幸いである。

注

三省堂『現代の国語』一年所収

ひとみ まこと 自称研究会オタク。色々な研究会で学ばせていただいています。一つの方法にしばらく、様々な学びの可能性を考えるのが趣味？です。